

2021. 6. 23 (水)

「働くこと」と人権

長 松 奈美江

生きにくい社会を生きる

今日は「人権のチャペル」ということなので、人権の話をしようと思います。こんにちでは、「人権が守られるべきだ」ということ、このことには誰もが同意すると思います。しかし、どのような権利が守られるべきなのか、どのようにしたらその権利が守られるのか、このようなことに関しては、意見が一致しないことが多いと思います。

今、社会はどんどん進化しています。しかし「人権を守る」ということ、このような基本的なことがまだ実現できない社会に私たちは生きています。世界を見渡せば、国民の多くが絶対的な貧困状態にある、あるいは政治的な権利が剥奪されているという、明らかな人権侵害がたくさんあります。ただ、私は主に日本社会のことを研究しているので、今日は日本のことを念頭にお話ししたいと思います。

先ほど打樋先生から紹介していただいたように、私は「働くこと」の研究をしています。皆さんと同じような学部生の頃は、私は正義や不平等の問題にすごく関心がありました。だから、平等とは何か、正義とは何か、ということに関する哲学的な本なども読んでいました。

でも、大学院に進んで研究を進めていくうちに、もっと具体的なことを考えるようになりました。その具体的なことというのが、「働く」ということ、「働く現場で生じる不正義の問題」でした。このことについてもっと深く考えたいと思うようになりました。

私たちの社会は、なぜこんなにも生きにくいのでしょうか。生きることがすごく難しいと、皆さんはそのように感じることはないでしょうか。どのようにしたら私たちの社会がもっと生きやすい社会になるのか、それを私は労働というフィールドから明らかにしたいと思っています。

「職場の人権」研究会との出会い

人権という話なので、「職場の人権」という研究会のお話をしたいと思います。この研究会の拠点は大阪ですが、私は「職場の人権」研究会に大学院生の時に出会いました。「職場の人権」研究会は、研究者だけではなくて、労働組合運動の活動家、企業やNPOで働いている人、学生たちなど、いろいろな立場の人が集って、社会で起きている問題について語り合う場でした。

この研究会で取り上げられるテーマというのはすごく多様です。例えば、ハラスメント

の問題、セクハラやパワハラの問題、ジェンダー不平等の問題、移民労働者、過労死や過労自殺、非正規労働の話、あるいは日本と他の国の働き方の比較の問題。本当にいろいろなテーマについて、立場が違う人が語り合う場でした。

大学院生の時の私は本ばかりを読んでいたので、この「職場の人権」研究会はすごく刺激的だったのです。研究会に行くと、自分が知らないことがいかに多く、自分に知識がないのか、それが痛感されました。研究会に参加して、立場の違う様々な人達の話に耳を傾け、社会で起きていることを直視しなければいけないと思いました。

この研究会は今でもオンラインで継続しています。最近聞いた話は、コロナ禍におけるシングルマザーの厳しい状況についての調査研究でした。皆さんもニュース等で見るかと思いますが、シングルマザーの人は非正規労働の人が多くて所得が十分ではなくて、生活がきつい状況にあります。このコロナ禍で収入や仕事などを失った人もすごくたくさんいます。子どもにご飯を与えるために自分は1日に1食だとか、子どもの残り物だけを食べて過ごすとか、そのような実態です。このような社会の現実を知ることの重要性、他の人の話に耳を傾けることの重要性を今でも痛感しています。

働く場で人権がないがしろに
されている

では、なぜ「職場の人権」といわずにいけないのでしょうか。それは、働く場で人権がないがしろにされているのだという、そのような問題意識があるからです。どのよう

な仕組みをつくったら人権が守られるのか、それをみんなで考えているという研究会です。

職場の人権について、先ほどテーマを少し紹介しましたがけれども、論じるべきさまざまなテーマがあります。実は研究会が発足して20年以上がたつのです。でも、職場の人権にまつわる問題はなくなっていない。むしろもっとひどく、そして複雑になっています。私はいつも思うのですけれども、なぜこのようにたくさん問題があって、多くの人がそれを問題だと言っているのに、なぜ解決しないのでしょうか。なぜ問題が解決しないのか、それを考える重要性をいつも痛感します。

1999年の研究会発足時の呼び掛けを、少し紹介します。「私たちの国では、今、職場での従業員の処遇が、その労働者個人の人権抑圧をもたらしをもする状況があらわになっている、労働問題は最大の生活問題であるばかりか、普通の労働者にとって深刻な人権問題になりつつあるのだ。例えば、過労死、過労自殺の問題があります。人は生きるために働いていますよね。でも、働き過ぎて死んでしまうということがあります。昔から過労死は問題視されているのに、今でもなくなっていません。先ほど、私たちの社会は「生きにくい」と言いました。なぜこのように生きにくいのか。そこで、人権という概念を考えてみます。人権は非常に難しい概念ですよ。何をもって人の権利だと考えるのか、どこまでが人権として保障されるべきかということです。どのように思いますか。考えてみたらすごく難しいです。

昔は、人権の概念はすごくシンプルだったのです。近代社会が始まった当初は、人の奴

隷とならないこと、自分の体や精神を自由に使えることなど、そのようなことが人権として主張されてきたわけです。でも、現代ではさまざまな権利が認められるようになりました。現代の人権とは、経済的な権利や社会的な権利などを含むようになっていきます。

さて、私たちはどのような権利を持っているのでしょうか。皆さんはそれぞれ、ご自分にはどのような権利があると思いますか。皆さんが社会のことを勉強していると、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」ということを聞いたことがあると思います。では、どのような生活であれば健康で文化的で最低限度の生活なのでしょうか。

例えば路上生活はいかがでしょう。お金がなくて1日1食で過ごすこと、これはいかがでしょうか。あるいは生理用品が買えないということ、これは今の社会で実際に起きていることです。そして、これは貧困と呼ばれている問題です。

このような貧困に陥ったらどのようにしたらいいのでしょうか。日本では生活保護制度があります。ただ、少しインターネットで検索してみたら分かるように、貧困な状態にある人、路上生活にあるような人が、生活保護を受けたいと思っているわけではないです。そのような生活保護の存在に疑問を持っている人もたくさんいるわけです。そのような貧困に陥るような事態を招いたのは自分の責任ではないか、それを自分にも他人にも求めるという、そのような自己責任を過度に求める風潮が、この世の中にあるわけです。

問題が解決されないことを直視する

このコロナ禍で人権問題というのは非常に

深刻になっています。私も調査でいろいろな人の話を聞くことがあるのですがけれども、何らかの困難を抱えている人が非常に多いです。この緊急事態宣言に入る前に、いろいろな困っている人の話を調査で聞きました。その調査で感じたことは、人は幸せになりたいのだという基本的なことです。

例えば結婚して子どもを2人持ちたいのだと、落ち着いて子育てをしたいのだという希望があります。あるいはうつなどの問題を抱えていても、働ける場所は欲しいという希望があります。あるいは70歳を過ぎたら家でゆっくり過ごしたい、家庭菜園でほしいという希望、でも年金が十分ではなくて、70歳を過ぎてもずっときつい仕事を、肉体労働をし続けなければいけないという、そのような現実があります。

困っている人たちというのは特別な人たちではないのです。しかし何らかのことが原因となって、働くことや家族のこと、健康のことなど、そのようなことが原因になって幸せになれない人がたくさんいるという社会の現実です。

貧困な状態にあるということ、路上生活であるということや、お金がなくてご飯が食べられないということ、それは先ほど言ったような健康で文化的な最低限度の生活が送られていないことだと私たちは思いますよね。そのような状況を何とかしなければいけないと思うと思います。

でも、何とかすることがすごく難しいのです。生活保護を受けることが恥だという人がいます。自分もそのように思うし、家族や親族や近所の人にもそのように思われてしまった、だからすごく人権が剥奪されていて多くの人は耐えているわけです。自分が悪いと

思って我慢しているわけです。だからそれよりも進んで、幸せになりたいのだ、良い教育を受けたいのだ、男性も女性も同じ権利が欲しいのだ、などと言うとぜいたくだと、そのように言われてしまうこともあります。

では、どのようにすればいいのかということを見ると、非常に難しいです。問題について知れば知るほど、問題が複雑で解決が難しいものであることを痛感します。どのような権利をどのように保障していくか、それを考えることが非常に難しいです。だから私たちは、困っている人や、その人たちの欲求をぜいたくだと言うような人たち、その人たちを取り巻く社会を直視し、理解しなければい

けません。やはりそこしか解決の道はないのかなと、私は思っています。

皆さんは社会学部で学んでいて、いろいろなテーマが社会学部にありますけれども、私は、多くの研究というのはすごく単純な欲求に導かれていると思います。社会を良くしたい、人権を守りたい、幸せになるには、など、そのような欲求をどのようにしてかなえていくかと、そのために社会を直視していくことが大事だと、私は思っています。以上で時間になりましたので、私の話は終わりたいと思います。ありがとうございました。

(社会学部准教授)